Leader

リーダー電子株式会社
2027年3月期 第２四半期決算説明資料

～高い技術力で映像・通信市場を陰で支え続ける

2026年11月6日

リーダー電子株式会社

証券コード：6867

リーダー電子とはどんな会社？
～会社紹介

リーダー電子の目指す先
～中期経営指針

リーダー電子の現在地
～2027年3月期 第２四半期決算

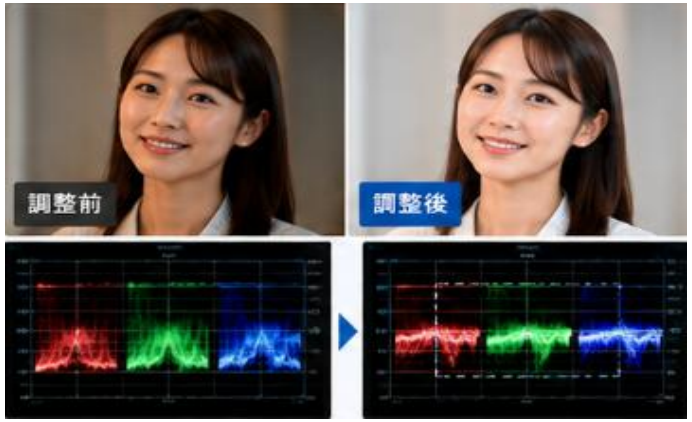
© Leader Electronics Corporation

映像市場における貢献

Leader

映像の「美しさ」と「心地よさ」を、長年培った技術で支えています

自然な肌の色が重視される



カメラの特性や照明の当て方によって人物の肌の色は変わって映る

肌色を自然に統一し、違和感のない美しい映像を作りたい

映像と音声のズレは厳禁



映像と音声のタイミングがズレると非常に印象の悪い映像になってしまう

口の動きと声のズレをなくしたい

複数カメラの色を統一したい



カメラが切り替わるたびに色合いや明るさが変わるとチカチカと見づらい映像になる

多数のカメラを正確に調整し、一貫した映像品質を実現したい

© Leader Electronics Corporation

利用シーン

Leader

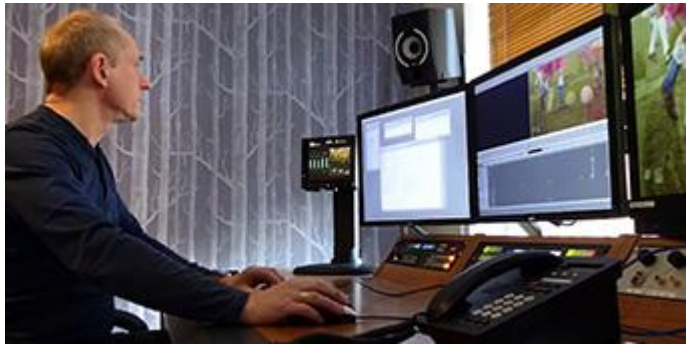
映像の「制作」・「編集」・「配信」のみならず、「機器開発」にも活用されています

放送局・生中継



報道番組や国際的なスポーツイベントなど、正確さと安定性が求められる放送現場において、映像品質の管理と機器の高精度な同期を実現

映像制作・編集



映画やドラマ、動画配信などの制作現場で、映像の色や画質を正確に確認し、高品質なコンテンツ制作と安定した制作環境を支援

製品開発



カメラやモニター、映像機器などの開発・検査工程において、製品の性能や品質を正確に評価するための測定機器として幅広く活用

© Leader Electronics Corporation

主力製品

Leader

2種類の主力製品を通じて「映像品質」と「安定稼働」を支えております

波形モニター



映像の
健康診断装置

映像の品質を正確に測定・評価

- 色・明るさ・信号の状態を測定し、映像を正確に評価
- 4K/8Kなど、高品質な映像制作を支える

信号発生器

放送システムのペースメーカー



放送システム全体の動きを正確にそろえる

- 多数の映像機器に同期信号を供給し、動きを統一
- 映像の乱れや放送事故を防ぎ、安定した運用を実現

© Leader Electronics Corporation

圧倒的な顧客からの支持

Leader

世界中の多くの事業者から圧倒的な支持をいただいています

世界展開



100ヶ国以上

- 米国・英国・中国・韓国に現地法人
- 中南米・東南アジア・欧州大陸等の販売拠点と全世界的な販売店網でグローバル供給体制を実現

国内シェア



70％以上

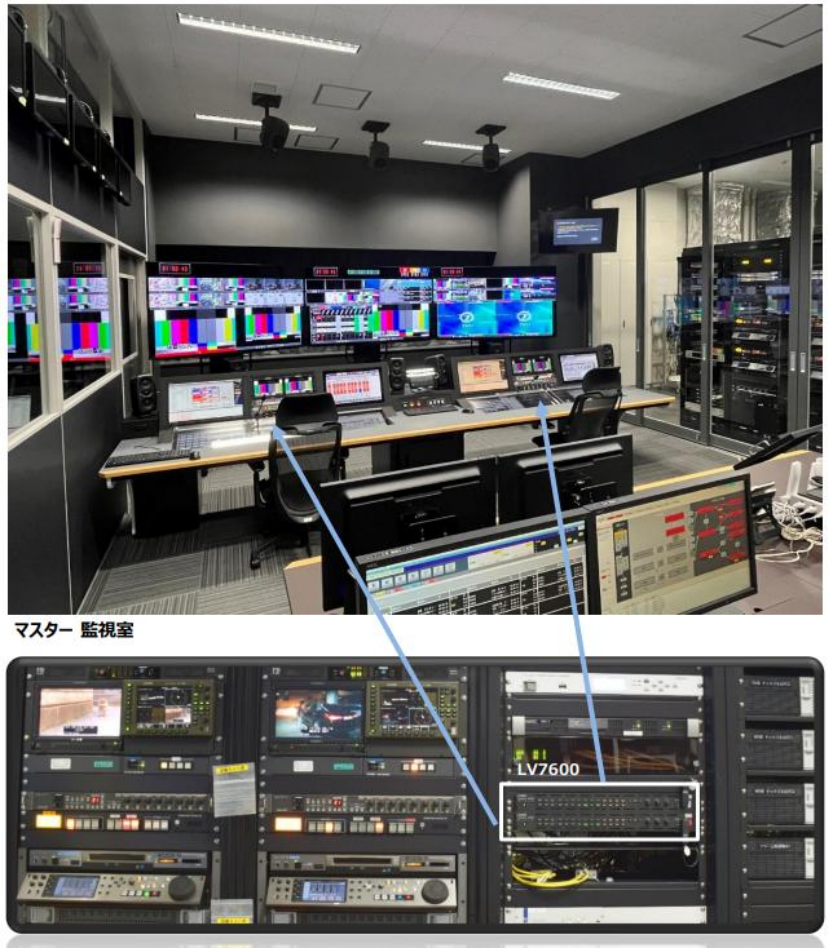
- 国内の放送・映像制作現場で広く採用
- 映像品質を支える測定機器として高い信頼を獲得

© Leader Electronics Corporation

導入事例(1) テレビ大阪様

Leader

日本初の「オールIP化」を実現されたテレビ大阪様のシステム構築から安定運用までを弊社製品が支えております



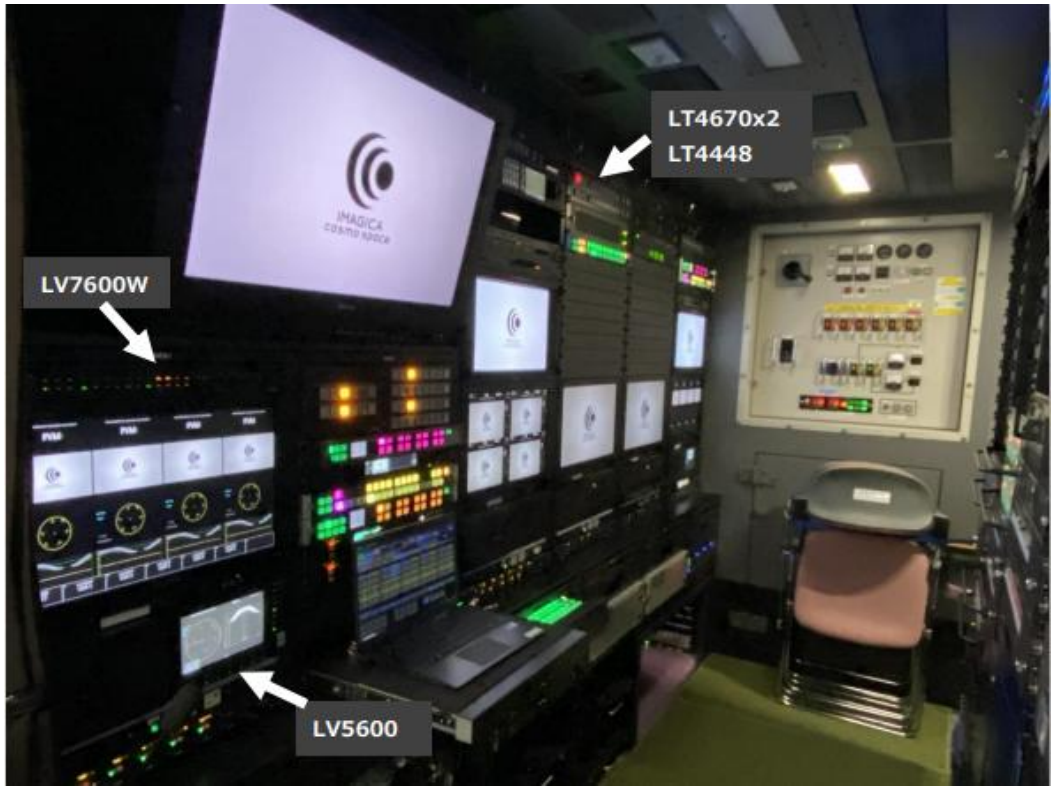
マスター 監視室

© Leader Electronics Corporation

導入事例(2) IMAGICAコスモスペース様

最新鋭の大型中継車の導入にあたり、弊社製品を多数採用いただきました





© Leader Electronics Corporation

導入事例(3) Game Creek Video様

Leader

スーパーボウル等、米国の巨大スポーツ中継を支える最大手モバイルユニット企業 Game Creek Video社の新造中継車にも採用いただいております





※ 出典：Sports Video Group（SVG）記事
「Game Creek Video Keeps Building Surge Alive, Builds 'Countdown' for ESPN, Upgrades Four More Units」
（執筆：Jason Dachman、2026年9月28日公開）より引用・作成

© Leader Electronics Corporation

導入事例(4) カバー様

Leader

ホロライブ 虎金妃笑虎様の生誕３Dライブの映像制作に技術協力いたしました



https://www.youtube.com/watch?v=5z8osqEvceo

© Leader Electronics Corporation

選ばれる理由

Leader

高い技術力を背景とした「信頼性」と「手厚いサポート」が世界中で評価されています

導入から運用までのサポート



多くのメーカーの機器が連携して稼働するシステムを運用する国内外の顧客からは、自社製品に問題はなくてもトラブル対応に真摯に対応する「日本型」のアフターフォローに対して高い信頼を獲得

放送現場で磨いた技術



放送現場で培った豊富な経験と高い技術力を活かし、より高度な/より複雑な映像システムにも対応。映像品質の維持と安定した運用を実現

多様な環境に応える製品力



ハードからソフトへの移行が進む中、世界的な実績を持つハードウェア製品で培った技術力を活かし、両者が混在する環境にも柔軟に対応

© Leader Electronics Corporation

さらなる成長に向けて

Leader

すべての事業領域で「ニッチトップ」・「デファクト・スタンダード獲得」を目指し、活躍の場の拡大に挑戦しています

既存事業

「バリュー・ビジネス・カンパニー」



放送関連事業

放送用の映像測定機器や信号発生器の開発



通信システム事業

放送・通信向け信号伝送システムの開発

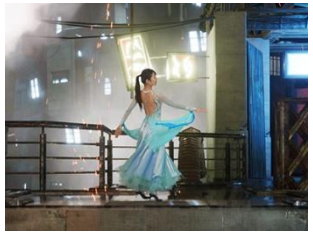
新規事業

「グロース・ビジネス・カンパニー」



イメージングデバイス事業

独自のカメラ評価技術を活かした検査・測定機器の開発



VMA※ 事業

映像制作の効率化とネットワーク管理を支援する技術の開発

※ Video Management Automation

© Leader Electronics Corporation

イメージング・デバイス事業の目指すもの

Leader

世界唯一の魚眼カメラ評価技術を武器に、自動車運転支援の開発を支えてまいります

魚眼カメラ評価技術

SFR-Fit



- 広範囲をカバーできる魚眼カメラは車載用途には最適
- ただし周辺部の画像が大きくゆがむため、これまでその性能を正しく評価する手法が存在しなかった
- リーダー電子は世界初の魚眼カメラ評価技術を開発。完成車メーカーや協力会社に採用いただいてる

© Leader Electronics Corporation

VMA事業の目指すもの

Leader

多様化する映像市場のニーズに斬新な製品/ソリューションで応えてまいります

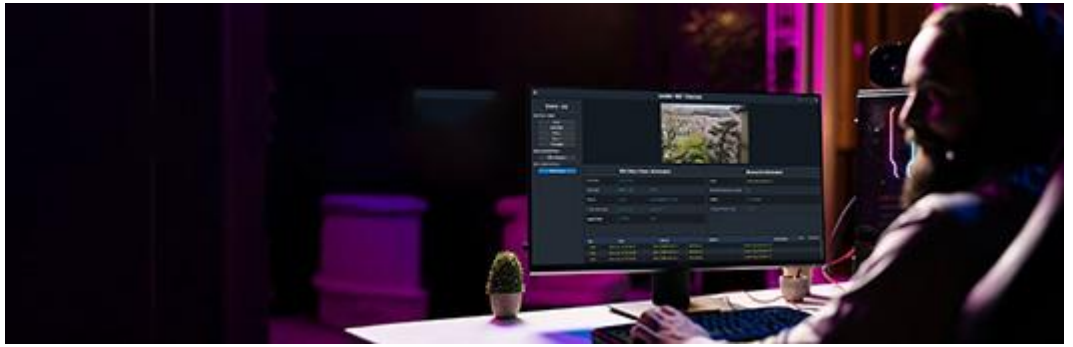
動画制作の効率化



REALMIXA

動画制作の自動化・省力化を通じて、制作現場の負担やコストを削減。放送分野で培った技術を活かし、高品質で効率的なコンテンツ制作を実現

動画配信の品質向上



NDI® Checker

5Gなど多様な通信環境において、映像の遅延や画質の変化をリアルタイムに監視。通信状況や映像品質を可視化し、安定した高品質な動画配信を実現

© Leader Electronics Corporation

会社概要

商号	リーダー電子株式会社
英文名	LEADER ELECTRONICS CORP.
設立	1954年5月1日
事業内容	電子計測器の研究開発・製造・販売
本社所在地	神奈川県横浜市港北区綱島東 2-6-33
資本金	1,342 百万円
決算期	3月31日
従業員数	66名（単体）、126名（連結）
役員	代表取締役社長　長尾 行造 常勤取締役　2名、社外取締役　4名 （監査等委員会設置会社）
子会社	海外販売子会社　3社（米国、中国、韓国） Leader Electronics of Europe（開発・製造・販売） － 2019年7月 100%子会社化、旧Phabrix 株式会社 AI Picasso（生成AI関連事業） － 2025年7月 100%子会社化
証券コード	6867（スタンダード上場）

＊ 2026年9月30日現在



代表取締役社長　長尾 行造

1997年4月　通商産業省入省
2001年4月　ブーズ・アレン・アンド・ハミルトン入社
2002年1月　コーポレイト・ディレクション入社
2015年6月　当社取締役
2017年6月　当社代表取締役社長（現任）

© Leader Electronics Corporation

Leader

トピックス

新製品ご紹介　Sx2シリーズ

Leader

世界随一のハンドヘルド波形モニターの第二世代「Sx2シリーズ」を2026年9月リリース

欧州最大級の放送機器展「IBC 2026」で「Best of Show」を受賞するなど、グローバル市場ですでに高い評価を獲得

Leader Phabrix



Sx2E

技術融合による強力な統合機能

LeaderとPHABRIXの技術を結集。信号生成・高度な信号解析
・モニタリング機能をコンパクトな1台に集約



12G-SDI 1本で4K高画質信号に対応

複雑な配線を解消し、ケーブル1本での4K解析を実現
現場設備のシステム簡素化と運用効率化に貢献



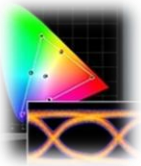
世界に認められた製品力と信頼性

欧州最大級の放送機器展「IBC 2026」にてアワードを受賞
現場の即戦力として世界市場で実証



現場対応の本格ハンドヘルド設計

プロ市場で求められる高精度な測定・アイパターン解析機能を、
機動性の高いポータブルサイズに凝縮



© Leader Electronics Corporation

新たな取り組み　REALMIXA BOX

Leader

実写とCGの合成動画を「より身近なものに」と、to C向けに2026年11月より展開開始



https://yaoyorozu-fes.jp/

（YouTube登録者数）

© Leader Electronics Corporation

リーダー電子とはどんな会社？
～会社紹介

リーダー電子の目指す先
～中期経営指針

リーダー電子の現在地
～2027年3月期 第２四半期決算

© Leader Electronics Corporation

全体像と主要施策

Leader

30年度にEBITDA18億円、時価総額250億円を必達目標とする
実現に向け事業成長・財務体質強化・M&Aを含めた積極投資を行う

事業成長	■ 「計測機器メーカー」から「映像・通信ソリューション企業」へと進化。S/Wによる価値提供を推進し、既存領域・成長領域ともにデファクト・スタンダードを獲得。 さらに開発費の効率的活用、徹底した原価低減を通じEBITDAを改善
財務体質強化	■ 在庫圧縮によりねん出した資金を成長領域へと投資することでROICを改善
積極投資	■ M&Aを積極展開することで、事業 － 財務の循環を加速化

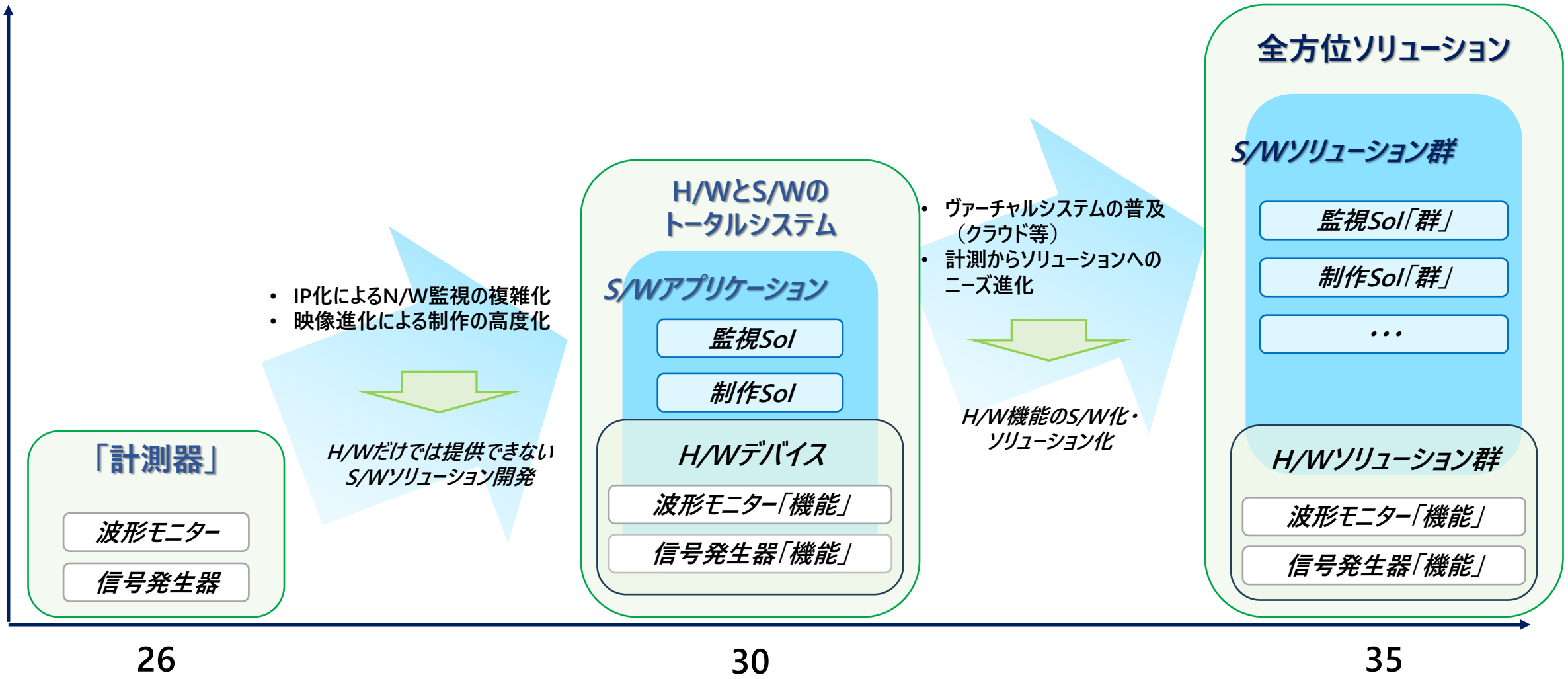
2030年度 EBITDA18億円・時価総額250億円の実現

© Leader Electronics Corporation

放送関連事業 － 事業進化マップ

Leader

ヴァーチャル化の進展に即し２ステップでソリューション企業への進化を遂げる



© Leader Electronics Corporation

放送関連事業 － 営業進化マップ

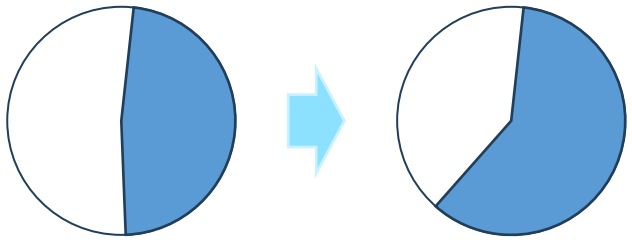
Leader

30年度までにゆるぎないグローバル・マジョリティ・シェアを確立する

北米

「点で突破し面を広げる」

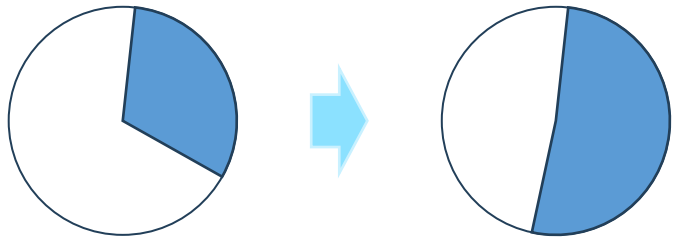
- キーカスタマーのロイヤルティを集中的に高め、その伝播力を活用して幅広い顧客に展開する



欧州

「点で突破し面を広げる」

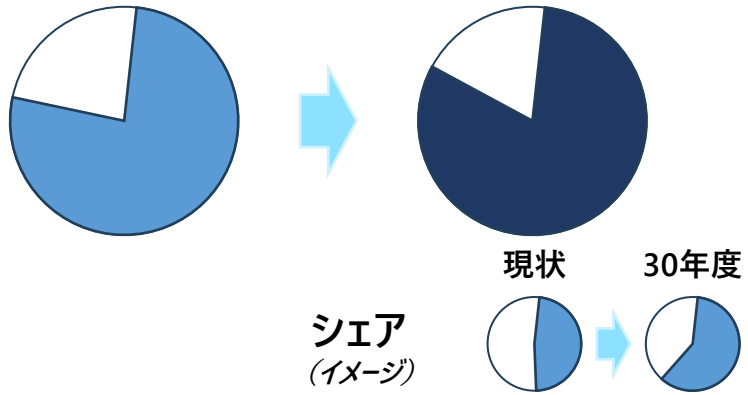
- 主要国・主要代理店へのプレゼンスを重点的に高め、そこから周辺へと展開する



日本

「顧客密度を高める」

- 顧客密着度を高めシェアを死守するとともにクロスセルにより収益密度を高める



© Leader Electronics Corporation

放送関連事業 － コスト削減マップ

Leader

開発予算シーリング維持の徹底・案件の精査、徹底的な原価低減、高粗利率の維持を通じて収益力を強化する

KPI

	現在	30年度
売上高対研究開発費率	19.9%	14.3%
研究開発費対製品粗利	3.3倍	4.6倍
粗利率	63.4%	63.4%

アクション

- より収益性の高いテーマに集中すべく、開発案件の優先順位付けの徹底
- 開発拠点の最適化
- 原価低減の徹底（代替部品の積極活用、部品の共有化、組立コストを意識した設計 等）

© Leader Electronics Corporation

VMA事業 － 事業進化マップ

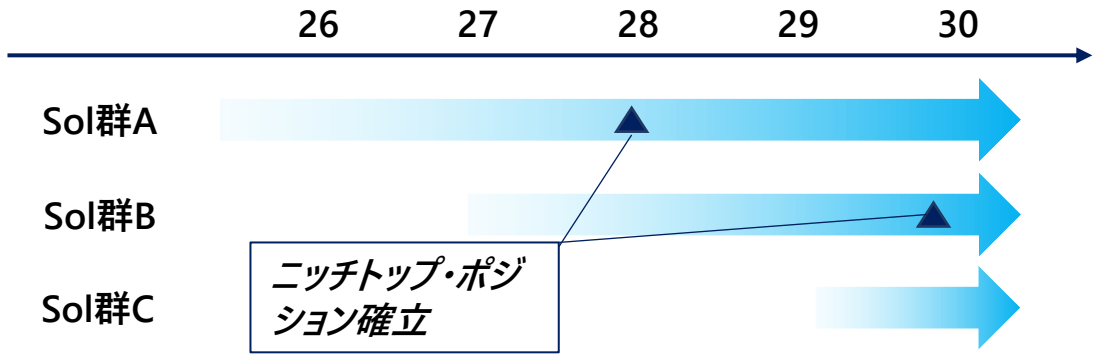
Leader

動画制作・ネットワーク両面でニーズを先取りしたソリューションを提供していく

動画制作ソリューション

動画制作ニーズの拡大・多様化の一方で制作能力供給が追い付かない見込み

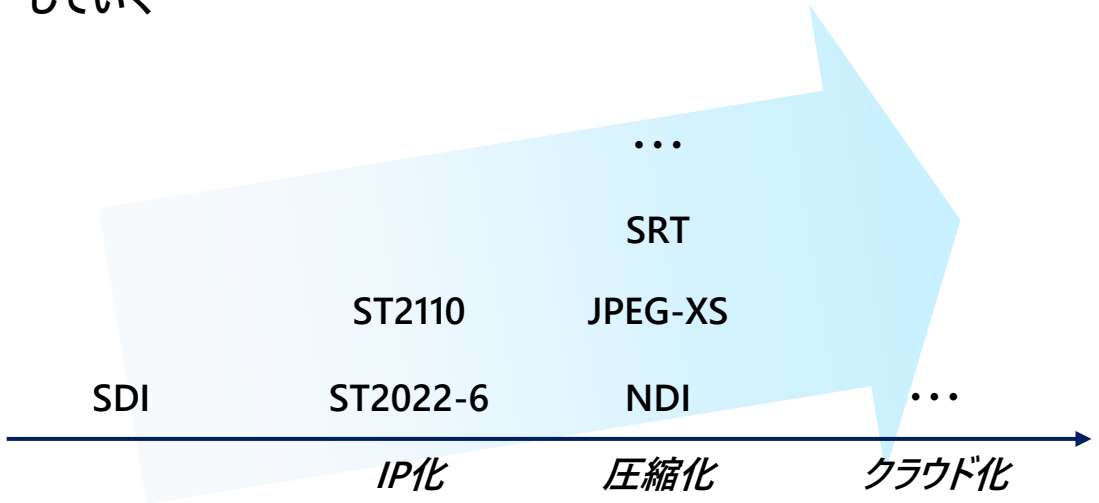
AI Picassoとの連携を強化し多様なソリューションを開発・提供し、3つの収益力のあるソリューション群を具備する



ネットワーク・ソリューション

動画のユースケース拡大に伴い、多様な映像フォーマットが「適材適所」で利用される見込み

E/Uのニーズや課題に即した提供形態でソリューションを拡充していく



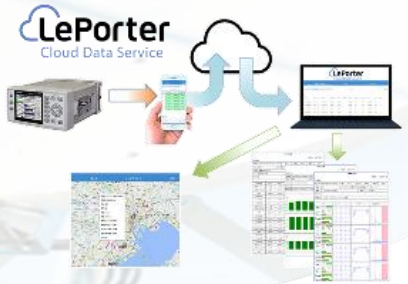
© Leader Electronics Corporation

その他事業

通信システム事業

- これまでの知見・経験の蓄積を活かし、顧客ニーズに即した受託開発を継続する
- ネットワークの高度化に伴い生じる課題をニーズと捉え、新たな事業機会を模索する
  - ネットワーク監視/トラブル予測
  - 同期管理　等





イメージング・デバイス事業

- 従来ターゲットとしていた自動車市場は、全世界的なEVの退潮等により、中長期的には潜在需要はあるものの短期的動向は不透明化
- 従って自動車市場の事業性を探りつつ新領域への展開を模索する



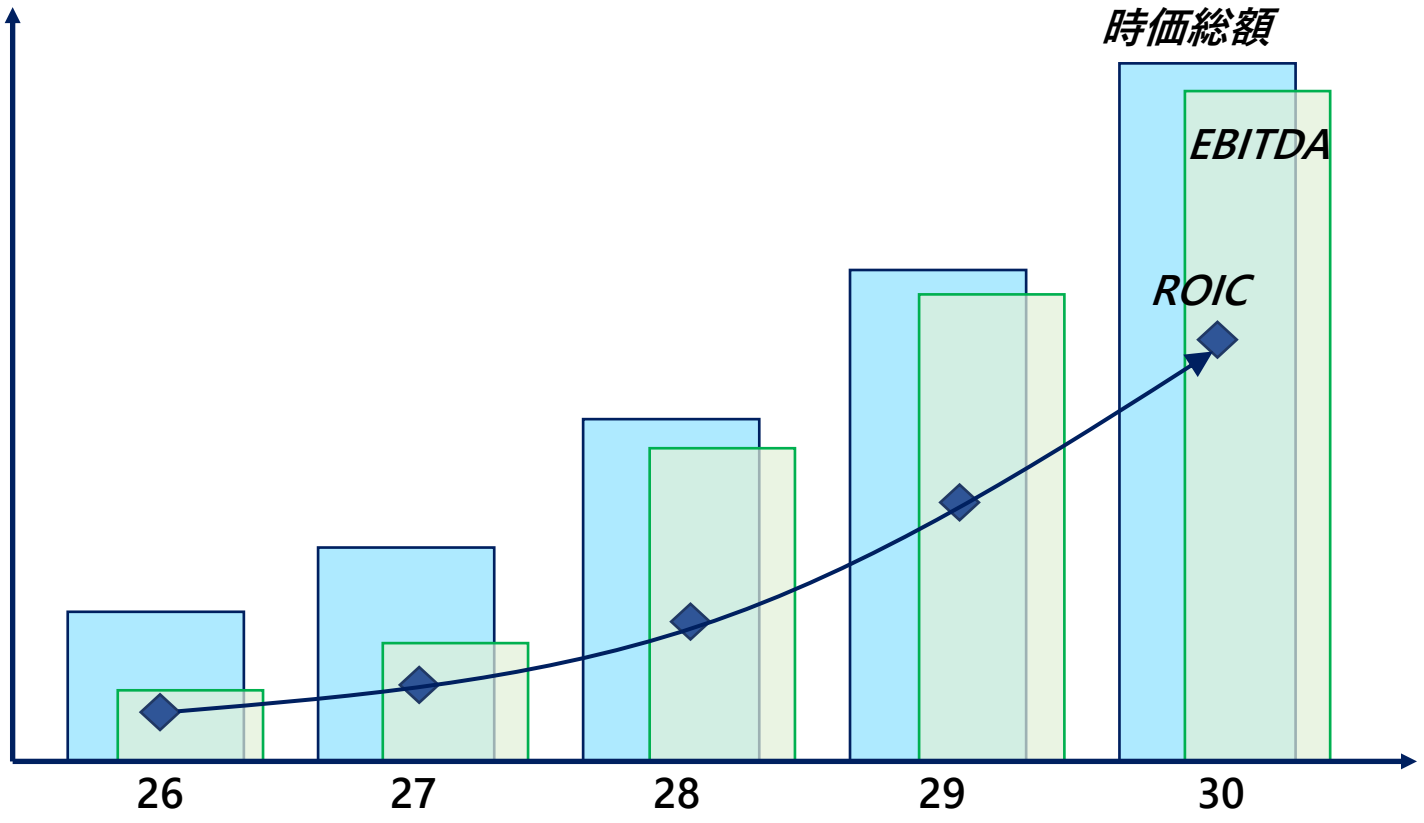


© Leader Electronics Corporation

財務方針 － 主要財務目標

Leader

より効率的な成長と企業価値向上を実現すべく、EBITDA・ROIC・時価総額を経営KPIとして導入し必達目標を定める



（百万円）

	EBITDA	ROIC	時価総額
26	160	3.0%	4,000
27	330	5.0%	6,000
28	900	8.0%	12,000
29	1,350	12.0%	18,000
30	1,800	16.0%	25,000

必達目標

© Leader Electronics Corporation

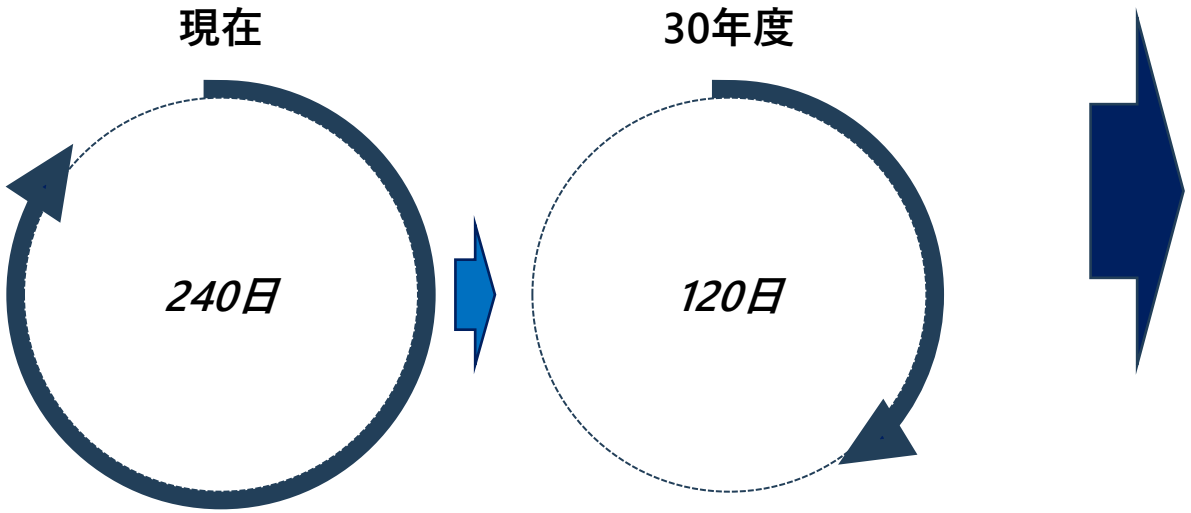
財務方針 － 資金の効率的活用とB/Sの筋肉質化

Leader

在庫を圧縮して高まった資金の流動性を成長投資・M&A投資に活用し、収益性を抜本的に改善するとともに、一層の株主還元を進める

在庫回転日数

30年度までに半減



アクション

- 販売予測精度の向上、生産リードタイム短縮を通じ在庫・前渡金の滞留を絞り込む
- ねん出した資金と高い自己資本比率を背景とした投資余力を最大限活用し、M&A展開も含め成長領域に積極的に投資する
  - 放送関連事業のクロスセル
  - VMA事業の要素技術・販売チャネル
  - 通信システム事業の同期市場参入への切り口
  等

株主還元

企業成長投資とのバランスをとりつつ、EBITDAに連動して配当を実施

© Leader Electronics Corporation

経営伴走体制の構築

Leader

筆頭株主となったアイ・オー・キャピタル(株)に伴走いただき、KPIのコミットメントを達成する

KPIの定期トレース

月次・四半期でのマイルストーンの予実管理

M&Aの伴走

案件ソーシング、デューディリジェンス、PMIまでを専門家としてサポート

DX・最適化AIの活用

データサイエンスに基づいた管理体制の強化

© Leader Electronics Corporation

収益見通し

Leader

30年度にEBITDA18億円を達成する

（百万円）

	26FY	27FY	28FY	29FY	30FY
EBITDA	160	330	900	1,350	1,800
営業利益	50	150	550	850	1,200
税引後 当期純利益	30	90	400	650	850
売上 （除 M&A）	4,150	4,550	4,950	5,500	5,800

© Leader Electronics Corporation

リーダー電子とはどんな会社？
～会社紹介

リーダー電子の目指す先
～中期経営指針

リーダー電子の現在地
～2027年3月期 第２四半期決算

© Leader Electronics Corporation

2027年度第2四半期決算サマリー

Leader

【業績】

前年度第1四半期に計上した大型特需案件を除くと増収だが、当初予定していた案件の第3四半期へのスライドや半導体を中心とした想定以上の価格上昇、VMA事業の積極的なマーケティング活動等により、営業利益は想定を下回る水準で着地
ただし、原価上昇分の価格転嫁やスライドした案件への営業活動は着実に進展していること、イメージング・デバイス事業が徐々に活性化してきていること、いわゆる「トランプ関税」の還付による営業外収益の計上などを通じ、通期においては、営業利益・当期純利益とも期初計画を達成する見込み

【対中期経営指針進捗】

通期では期初計画を達成する見込みであり、中期経営指針の達成に大きな影響を及ぼす要素は見られない

【主要KPI】

EBITDA・ROIC・FCFについては、営業損失・当期純損失の計上で低迷。通期では営業利益・当期純利益の予想達成を見込んでおり、ターゲットの達成を果たす
在庫回転日数については、着実に改善が進んでおり、年度を通してもターゲットを上回る成果を達成する見込み
時価総額については株式市場からの認知度の低さ、中期経営指針に対する信頼性の乏しさが株価低迷の原因と分析。積極的なIR展開と業績の回復を通じて、市場からの評価を得られるよう引き続き取り組んでまいる所存

© Leader Electronics Corporation

PLサマリー（前年対比）

Leader

前年度第1四半期に計上した大型特需案件を除くと増収。かつ売上・営業利益ともに前年度よりも積み上がり速度が着実にアップしている

（百万円）

	1Q累計			2Q累計			3Q累計			通期		
	当期	前期	差分	当期	前期	差分	当期	前期	差分	当期	前期	差分
売上高	758	935	▲177	1,754	1,888	▲133						
営業利益	▲161	54	▲215	▲211	▲46	▲175						
当期純利益※	▲121	58	▲179	▲169	▲48	▲120						
EBITDA	▲139	69	▲208	▲175	▲19	▲156						
時価総額	1,905	2,523	▲618	1,855	2,298	▲442						

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

© Leader Electronics Corporation

PLサマリー（通期予算比）

Leader

（百万円）

	対通期予算進捗率		
	2Q実績	通期予算	進捗率/差異
売上高	1,754	4,100	42.8%
営業利益	▲221	50	-
当期純利益※	▲169	70	-
EBITDA	▲175	160	▲335
時価総額	1,855	4,000	▲46.4%

【売上】

当初予定していた案件の第３四半期へのスライド発生等により、想定（1,850）に対して下振れ

【営業利益】

半導体を中心とした想定以上の価格上昇やVMA事業の積極的なマーケティング活動等により、想定（▲100）を下回る水準で着地。ただし、原価上昇分の価格転嫁やスライドした案件への営業活動は着実に進展

【当期純利益】

いわゆる「トランプ関税」の還付（47）による営業外収益等により、営業利益を上回る結果

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

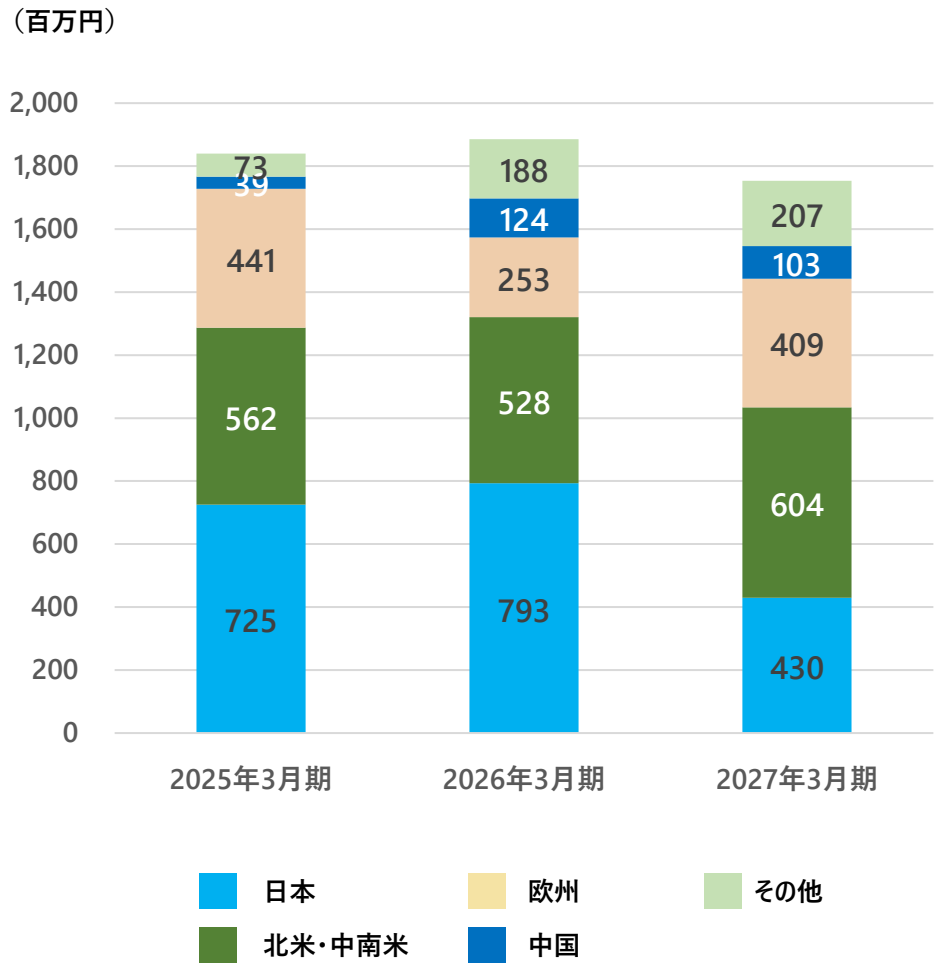
© Leader Electronics Corporation

セグメント別の実績と課題：地域別

Leader

日本	前年度第１四半期に計上した大型特需案件を除くとほぼ横ばい。市場環境は楽観できないものの積極的なプロモーションと休眠顧客開拓等を通じて増収を狙う
北米・中南米	市場環境は悪くはない。顧客認知・顧客満足向上によってシェア拡大が増益に。政策の不透明性もあり楽観はできないが、幅広い顧客へのアプローチを通じて増収を狙う
欧州	国際的な政治・経済環境の不透明さを背景に、市場に力強さは見られないが、ドイツ・フランス・スペイン等シェア拡大余地の大きい市場への重点攻略を行い、増収を狙う
中国	非常に厳しい市場環境、かつ国内調達重視の姿勢が鮮明化。少しでも多くの案件を獲得しつつ、他地域での増収で減収を補完
その他	韓国・ASEANが大きく伸長。このトレンドは下期も継続しており、大きな飛躍を狙っていく

【地域別売上高推移（第2四半期）】



© Leader Electronics Corporation

セグメント別の実績と課題：GBC

Leader

【実績】

＜イメージング・デバイス事業＞

前年度の「EVショック」の影響は完全に払しょくされてはいないものの、徐々に自動車産業向けからの引き合いが活発化。
重要顧客に対する期初から継続している中期的視点での商談が具体的に進展するようになってきており、下期以降の
具現化が見込める状況

＜VMA事業＞

６月にリリースしたREALMIXAのマーケティング活動を通じ、実写/CG合成動画制作市場のニーズや課題をより具体的に
/精緻に把握

【課題と対処方針】

＜イメージング・デバイス事業＞

海外展開を掲げているものの順調には進んでいない。ただし目下活発化している国内市場を優先に取り組む所存

＜VMA事業＞

実写/CG合成動画市場のポテンシャルがまだ花開いておらず需要創造が必要。多くの人に合成動画を体験してもらう
機会提供を通じて需要喚起に取り組んでいく

© Leader Electronics Corporation

BSサマリー

Leader

在庫圧縮が着実に進展している

（百万円）

	前期末	2Q末
流動資産	3,677	3,463
現預金	1,310	1,526
売掛金等	774	557
在庫	844	691
その他	747	687
固定資産	1,204	1,152
有形固定資産	471	468
無形固定資産	196	183
投資等	535	500
総資産	4,881	4,615

	前期末	2Q末
流動負債	683	589
買掛金	154	109
借入金等	3	0
その他	525	480
固定負債	572	566
退職給付引当金等	392	385
その他	179	180
純資産	3,626	3,459
負債純資産合計	4,881	4,615

自己資本比率74.9%（前期末比 +0.6pt）

© Leader Electronics Corporation

経営KPI

Leader

【EBITDA・ROIC・FCF】

営業損失・当期純損失の計上で低迷。通期では営業利益・当期純利益の予想達成を見込んでおり、ターゲットの達成を果たす

【在庫回転日数】

着実に改善が進んでおり、年度を通してもターゲットを上回る成果を達成する見込み

【時価総額】

株式市場からの認知度の低さ、中期経営指針に対する信頼性の乏しさが株価低迷の原因と分析。積極的なIR展開と業績の回復を通じて、市場からの評価を得られるよう引き続き取り組んでまいる所存

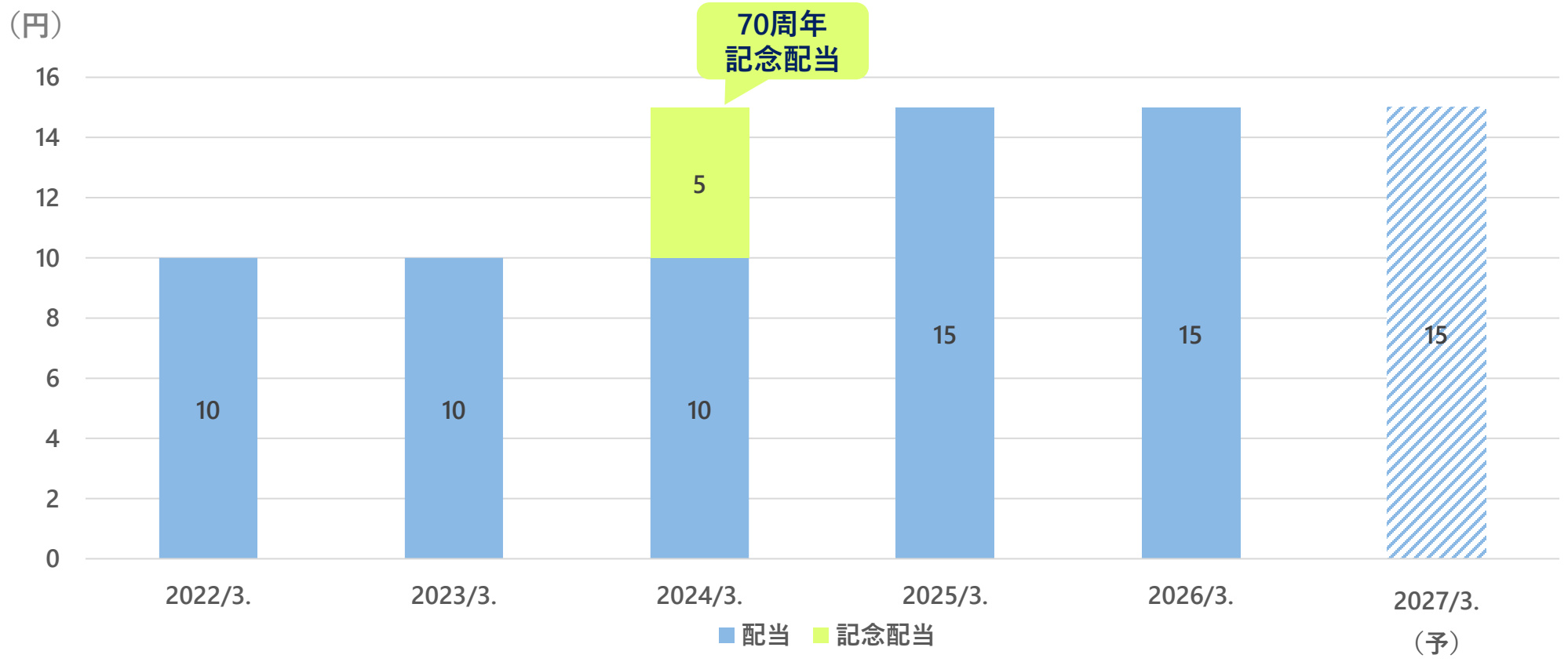
（百万円）

	1Q	2Q	3Q	通期	ターゲット	進捗率/差異
EBITDA	▲137	▲175			160	▲335
ROIC	▲4.8%	▲7.5%			3.0%	▲10.5%
FCF	138	140			600	▲460
在庫回転日数	197日	162日			210日	◎ 48日
時価総額	1,905	1,855			4,000	▲46.4%

© Leader Electronics Corporation

株主還元

企業成長投資と株主還元のバランス重視しつつ安定的な配当を継続



© Leader Electronics Corporation